

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

滋賀県 防災キャンプ推進事業

滋賀県

【事業のポイント】

- 多文化共生について考える
- 災害に対して日頃からの心構えや、災害時の適切な行動を学ぶ
- ライフラインが絶たれた中での生活体験をする
- フォーラムを通して防災に関する体験活動の推進や充実を図る



1. 企画

(1) 事業実施の背景

滋賀県は、琵琶湖西岸断層帯、鈴鹿西縁断層帯をはじめとしていくつもの断層帯が存在し、その中の何箇所かは今後30年以内に地震が発生する可能性が高いと言われている。また、本県南部には河床が流域地帯より高くなっている天井川が多くあり、地震などで堤体が崩壊すれば大きな被害が出ることも予想される。さらに県内には福井県内にある原子力発電所から30キロ圏内に含まれる自治体もあることより、県内全域で日頃から防災に関する住民自らの意識の向上と有事の時の冷静かつ集団的な取組みが大切となる。

(2) ねらい

湖南地域(湖南市)、湖西・湖北地域(高島市)、そして湖東地域(愛荘町)と県内の各地域で実施する。各市町では青少年の防災地域リーダーの育成、比率の増えてきた外国人住民の誘導や支援、原子力に関する知識の理解など、県内各地域の実情に合わせた防災に関する取組みを含めた防災キャンプを実施し、各地域の防災モデルとして住民の意識の高揚を図ることを目的とする。

2. 事業概要

(1) 運営体制

◎滋賀県・滋賀県教育委員会において関係部局や市町等と連携をとりながら、防災キャンプの事業結果を県下の自治体や教育関係職員等に普及する。

◎県運営委員会の設置

(滋賀県防災危機管理局、防災に関する有識者、湖南市教育委員会、高島市教育委員会、愛荘町教育委員会、滋賀県教育委員会生涯学習課(事務局)等)

◎湖南市、高島市、愛荘町に再委託し、3市町で防災キャンプを実施する。

(2) 開催実績

月 日	内 容
《湖南市》	
9月2日	第1回企画運営委員会
9月24日	第2回企画運営委員会
10月5日	第3回企画運営委員会
10月5日～6日	こなんっ子防災キャンプ
11月23日	活動状況展示(湖南市青少年育成大会活動展示コーナーに絵日記の展示)
11月27日	第4回企画運営委員会
《高島市》	
6月6日	第1回 企画運営委員会(事業計画について)
7月25日	第2回 企画運営委員会(運営と役割分担について)
8月3日	キャンプ 1日目
	研修①「応急手当や救護の仕方・初期消火の仕方を学ぼう」
	研修②「避難所でのテント設営」
	研修③「避難所生活の知恵と工夫」
	研修④「夜に備えて」

	研修⑤「地震に備えて」&お風呂を沸かせ
8月4日	キャンプ 2日目
	研修⑥「災害時入浴体験」
	研修⑦「炊き出し訓練」
8月20日	第3回 企画運営委員会(事業評価等について)
《愛荘町》	
6月28日	愛荘町防災キャンプ第1回企画運営委員会
7月18日	愛荘町防災キャンプ第2回企画運営委員会
8月8日～9日	愛荘町防災キャンプ実施
9月5日	愛荘町防災キャンプ第3回企画運営委員会
《滋賀県》	
6月10日	防災キャンプ推進事業第1回県運営会議
11月29日	滋賀県防災キャンプフォーラム

3. 防災キャンプ実施概要

《湖南省》

■活動プログラム

◆1日目(10月5日)

13:30 避難訓練

- 防災行政無線を聞き避難。「やさしい日本語」「ポルトガル語」「日本語」で放送。
やさしい日本語についてアンケートを実施。
避難所と同じように自分で受付用紙を記入。



14:00 避難所開設(開会式)

- 教育長あいさつ
ポルトガル語の通訳付きであいさつ
- オリエンテーション
- 日程説明



14:15 防災講座①

- 湖南省の防災について

市防災担当者から、湖南省の地震による被害想定や防災について説明。

- ワークショップ「言葉がわからない」体験ゲーム 何が起きた?(震災編)

講師:滋賀県国際協会 大森容子氏

言葉が通じない国の避難所で、水や食料が支給されます。

トイレの水か飲料水か。配られた食料の数は人数分あるか。その体験から、外国の人が震災に遭った時の不安や自分が海外で震災に遭った時のことを知ることができました。

そのあと、避難所のピクトグラムをみんなで考えました。



16:30 居住地づくり

○避難や避難所でのルール

○段ボールで居住地づくり

東日本大震災の避難所のことや避難所でのルールについて説明を受けた後、みんなで段ボールで居住地をつくりました。最初は既存のダンボールハウスをつくり、その後、子どもたちは思い思いにダンボールとテープを使って自分たちの居住地を作りました。

また、今回は食事、毛布の配給・配布場所、インフォメーションコーナーも設置し、ピクトグラムも入った表示をしました。



17:30 夕食

○非常食を食べよう

カレーライス(アルファ米とカレー)

○いろいろな非常食やグッズの紹介

避難した日は、調理は困難なことから非常食を食べる。非常食ってよく言うけど、どんな味。

実際に自分で準備して食べようということで、今回は水を入れて白米をつくり、そのまま食べられるカレーを体験。水だどごはんを食べるのに1時間必要なことが分かった。また、お味は、…。人それぞれいろいろな感想がありました。

その他にも、カンパンやパスタ、いろいろな惣菜があることを知りました。

また、非常用袋やいろいろな防災グッズを見ました。



19:30 防災講座②

○研修(お互いを理解しよう)&レクリエーション「防災のちがい～海外と日本の防災～」

講師:三重県国際交流財団 上原ジャンカルロ氏

世界の防災の考え方、日本との違いを学びました。日本で当たり前な避難行動がその国では危険な行動になることもあること。あらためて知ることの大切さを実感しました。途中ジェスチャーゲームなどをして、言葉が通じない大変さを感じました。



21:30 就寝準備(洗顔、歯磨き、着替え)

22:00 就寝 作った居住地で睡眠



◆2日目10月6日(日)

6:30 起床 洗顔、歯磨き

7:00 朝食「ホットドッグ」「カンパン」

○牛乳パックを使ってホットドッグづくり

○非常食の「カンパン」「缶入りパン」試食

牛乳パックはよく燃えるのでさまざまなことに利用できます。

空き缶飯盒の燃料替わりなどにも使えます。

今回は燃やすだけで作れるホットドッグを作りました。

昨夜のカレーが冷たかったので、温かいものが食べることができてよかったという話が聞かれました。



8:00 あとかたづけ

○避難所撤収

毛布・シーツの返却、段ボールハウスの解体、トイレや更衣室など施設の清掃

9:00 防災体験

○防災訓練

講師：湖南中央消防署

・消火訓練(消火器、消火栓)

・煙マシン体験

湖南中央消防署員の指導のもと消火器を使って消火訓練を行いました。消火栓による放水も体験。

煙マシンでは、思っていた以上に煙の中を歩くことが難しいことを体験しました。



11:00

ふりかえり ○絵日記づくり

2日間の活動の感想や知ったことを絵日記にして班ごとにまとめ展示しました。



12:00

閉会式 ○閉会式 ○記念撮影

参加者全員で施設の前で記念撮影。そのあと、閉会式で教育部長の閉会あいさつをもって終了しました。

《高島市》

日時	プログラム・プログラム詳細
8月3日(土) 10時00分～	開会式・スタッフ紹介・注意事項説明 [ECC学園校舎横 本部テント前]
	  
	<p>教育長あいさつ</p> <p>スタッフ紹介</p> <p>注意事項説明</p>

10時10分～ 研修 ①「初期対応を学ぼう」 講師:高島市消防本部
 ※ 応急手当や救護の仕方・初期消火の仕方を学ぶ。
 [椋川山の子学園 炊事棟・ECC学園 運動場]



初期消火訓練

11時00分～



応急手当

12時00分～ 昼食「非常食を食べよう」 [椋川山の子学園 炊事棟]



非常食の試食と豚汁

13時00分～ 研修 ②「避難所でのテント設営」 講師:社会教育課 [ECC学園 運動場]



8月3日(土)

研修 ③「避難所生活の知恵と工夫」 講師:たかしま災害支援ボランティアネットワークなまず
 補助:高島市PTA連絡協議会

14時30分～ ※ (大人の部)・ブルーシートでプライバシーを守る仮設テントづくり [ECC学園 体育館]
 ・新聞紙で簡易トイレづくり [ECC学園 体育館]
 (子どもの部)・新聞紙で寝袋づくり・マスク・スリッパづくり [ECC学園 校舎廊下]
 (全 員)・災害時行動マニュアルパズルづくり [ECC学園 体育館]



仮設テントの設営



簡易トイレづくり



寝袋づくり



簡易マスク&スリッパづくり

15時30分～



災害時行動マニュアルパズルづくり

16時00分～

研修 ④「夜に備えて」講師：たかしま災害支援ボランティアネットワークなまず
※ 空き缶でランタン・飯ごうづくり [椋川山の子学園 炊事棟]



ランタン&飯ごうづくり

16時45分～

夕食(空き缶の飯ごうでご飯を炊こう。うどんと卵の茶わん蒸し、切干大根とこんぶの和え物)



空き缶の飯ごうで炊飯



うどんと卵の茶わん蒸し

19時00分～

研修 ⑤ 「地震に備えて」&ドラム缶風呂
※ (大人)地震に備えての講話とDVD鑑賞
(子ども)ドラム缶風呂に入ってみよう。

[椋川山の子学園 炊事棟・ECC学園 和室]
講師:高島市総合防災局



ドラム缶風呂



地震に備えての講話とDVD鑑賞

20時00分～

楽しい夜のひとときを [ECC学園⇄天文台⇄おつきん椋川交流館]
※ 星空観察会

夜間歩行訓練:電気が断たれた状況を想定し、ランタンを携行し、夜道を歩く体験をする。



星空観察会



夜間歩行訓練

20時00分～



夜間歩行訓練(おつきん椋川交流館 見学)

22時00分 就寝

8月4日(日)

6時00分 起床

6時30分～ ラジオ体操 [ECC学園校舎横 本部テント前]



ラジオ体操

7時00分～ 朝食(牛乳パックを使ってホットドッグづくり) [椋川山の子学園 炊事棟]
※ 災害時、電気やガスが断たれた状況を想定した簡単な調理法を学ぶ。



ホットドッグづくり

8時00分～ テント撤収・感想の記入 [ECC学園 運動場]



9時00分～ 研修 ⑥ 災害時の入浴体験 [ECC学園 運動場]
※ 災害時の入浴支援を体験するとともに、陸上自衛隊の災害派遣活動を知る。



足湯体験

10時30分～ 研修 ⑦ 災害時の炊き出し訓練 [椋川山の子学園炊事棟・ECC学園校舎横 本部テント前]
※ 火起こし機で火をおこす。
薪に火をつける。
陸上自衛隊の炊事車を見学し、災害支援活動を知る。



火起こし体験



薪を使ってカレーづくり



陸上自衛隊 炊事車の見学

12時00分～ 昼食(カレーを食べよう) [椋川山の子学園 炊事棟]



13時00分～ 閉会式



《愛荘町》

平成25年8月8日(木)

- 8:50 愛知川武道館集合
- 9:00～ 開会式、名札づくり、自己紹介
- 9:30～ 活動①「避難所での居場所づくり」
- 12:00 救援物資の受け取り
- 13:00～ 活動②「地域の危険を見つけよう」
- 17:00～ 「夕食の準備」
夕食、後片付け、自由時間
- 19:30～ 活動③「防災ゲーム～クロスロード～」
- 22:00 就寝



8月9日(金)

- 6:00 起床
ラジオ体操、寝具の片付け、朝食
- 8:30～ 活動④「消防署で消防体験」
- 12:00 昼食
- 13:00～ 活動⑤「給水車からの受水体験」
- 14:30～ 活動⑥「消防センター見学、体験Ⅱ」

- 17:00 解散



《滋賀県》

11月29日(金)
防災フォーラム

- 受付
- 開会行事
 - ・開会あいさつ、日程説明
- 事例発表
 - ・「高島市防災キャンプの取組」高島市より
 - ・「愛荘町防災キャンプの取組」愛荘町より
 - ・「湖南市防災キャンプの取組」湖南市より
- 講演1「命を守る知恵・助け合う知恵」
～地域ぐるみの防災福祉学習で、「底力」をつくる!～

滋賀県社会福祉協議会地域福祉担当部長・
滋賀県災害ボランティアセンター副センター長 谷口 郁美 氏

- 講演2「地域と共に学ぶ防災教育」
滋賀大学教育学部教授

藤岡 達也 氏



4. 防災キャンプの普及啓発

【滋賀県防災キャンプフォーラムの実施】

活動名: 滋賀県防災キャンプフォーラム

趣旨: 防災キャンプの成果を普及するため、事例報告や基調講演、意見交換の場を設けるフォーラムを開催する。

※ 3. 防災キャンプ実施概要 参照

【広報誌を活用】

県教育委員会教育広報紙「教育しが」

発行部数:200,000部 対象:全教員、市町教育委員会、教育機関、県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(校・園は児童生徒全員配布)

【WEBを活用】

防災キャンプの様子や内容などを滋賀県学習情報提供システム「におねっと」で発信し、県内各市町・地域での防災教育の一助となるようにする。

5. 成果と課題

(1) 事業成果

- ・研修や消防訓練の実技などでは積極的に参加し質問する子どもも多く、子どもたちの自主性の向上が感じ取れた。
- ・お互いが助け合うなど思いやりの気持ちを感じ取れた。
- ・今回の事業で、今後防災キャンプの基本となるプログラムが構築できた。
- ・「普段、親子でできない活動ができた。参加して良かった」という声が多く、体験を通して親子の交流にもつながった。
- ・災害が起きたときの大変さや普段の生活の有難さを感じ取った。

(2) 事業運営上の課題・留意点

- ・アンケートの感想で楽しかったという意見が多かったが、本来、災害時の大変さが伝わっていたか。
- ・今回は、特定の団体と保護者を対象に、市全体の事業として実施したが、参加者が多く、限られた活動プログラムとなってしまった。もっと早い段階からいろいろな人に参画をいただき、地域で取り組めるようにする必要がある。
- ・災害時に中学生は戦力になることから、ボランティアとして企画段階から関わっていただくなど育成してはどうかという意見があった。
- ・防災キャンプは子どもたちにとって“楽しそうだから”で参加したキャンプになってしまった。子どもたちの防災に対する参加意識をもっと高めることが重要。

(3) その他

- ・愛荘町は26年度も引き続き実施予定。
- ・高島市は26年度は文科省の公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラムの②地域の防災拠点形成支援プログラム(生涯学習政策局社会教育課)を委託し市内の6つの公民館で実施予定。
- ・湖南市は26年度は2カ所で実施予定。そのうち1カ所では通学合宿も防災の内容も両方入れたいとの計画。、ボランティアさんの意見やアイデアを事業の中身に反映させるには自由がきかないという内容から再委託金では無理と考え、市費で実施予定。

6. 団体プロフィール

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目1番1号

電話077-528-4654(直)

